

本時の流れ（第2時）

○ 骨の存在を意識し、「関節」の場所について調べるとともに、骨が体を支え、体の器官を守っていることを知る。

課題の把握

本時の展開例はこちら

CLICK

【課題】

体のほかの部分の関節はどうなっているだろうか

腕の関節で調べたことをもとに調べよう。

内臓を守る骨もあるね。



【課題の把握】

☆ 腕の関節調べの学習から、体のほかの部分の関節を調べ、骨や関節がどんな役割をしているのかを知る。

ねらいの設定

ワークシートはこちら

CLICK

（提示）今日の学習のねらいを考えましょう。

【学習のねらいの設定】

- ☆ 「腕の関節調べ」の学習から、「体のほかの部分の関節はどうなっているだろう」という疑問につなげられるようにする。
- ☆ 全ての児童がこのようなねらいを持つことは考えられないので、数人の児童の考えを取り上げる形で、ねらいを設定する。

（発問）どのように調べますか。

【観察の視点の確認】

- ☆ 個人で観察の視点を考えさせた後、グループで観察の視点を交流し、調べ方について考えさせる。
- ☆ 「腕の関節調べ」と同じ方法でも良いが、観察の視点については明確にしておく。

観察の視点の確認

観 察

（指示）体のほかの部分の関節について調べましょう。

【観察】

- ☆ グループで話し合った観察の視点をもとにして調べる。
- ☆ 気付いたことや疑問に思ったことをワークシートに記入する。
- ☆ 「腕の関節調べ」で分かったことや気付いたことと比較して、観察する。
- ☆ 腕と足を比較し、同じつくりになっているところを探す。等

学習のまとめ

（指示）観察結果をまとめましょう。

【学習のまとめ】

- ☆ 「腕の関節調べ」の学習と比較しながら、同じようなところや違うところをワークシートに書かせる。
- ☆ 骨はあっても関節がない部分（頭蓋骨、肋骨など）や背骨のように骨がいくつもつながってどの向きにもなめらかに曲がる部分があることにも気付かせ、内臓を守ったり柔軟な運動ができたりする仕組みについても考えさせる。